

長岡造形大学の授業評価アンケートにおける満足度の充足に関する試み

An Attempt of Raising Student Satisfaction Score of Class Evaluation Questionnaire in Nagaoka Institute of Design

平山育男

Ikuo HIRAYAMA

It is found that student satisfaction score is high when the progress of classwork is well controlled and the lecture is easy to understand.

Keywords : The vice-teaching materials, Understanding The degree of progress
副教材、理解、進捗

1. はじめに

長岡造形大学においては平成14(2002)年度より、本学において実施される全授業科目について授業評価の質問をアンケートで実施している(以下、章題などを除き「授業アンケート」と略す)。本稿はこの授業アンケートについて、特に授業に対する学生満足度の充足を高めるための試みとして、平成18(2006)年7月19日、本学において実施した学部研修会において筆者が発表した内容を中心にまとめたものである。筆者の取り組みが広く学内外において検討の上共有化され、加えて多方面からご意見を頂ければ幸いである。

2. 長岡造形大学における授業評価の制度と取り組み

平成14(2002)年度前期科目から実施した授業評価では、当初質問事項は50を越えたが、漸次項目を減らし現在の13項目に至っている。授業アンケートは無記名で、選択式質問と自由記述式質問からなり、その結果は全体及び、教養、専門教育科目(学部共通、学科並びに講義、演習・実習別)、大学院の合計10種別ごとの結果が表とグラフとして全学及びインターネットを通じて公にされ、個々の授業における結果は各教員にのみ開示されている。

授業アンケート用紙表面は、図1に示す通りのもので、選択式質問は現在13項目である。なお、選択式質問のうち9番目の

授業指導内容の満足度はどの程度でしたか

という質問は、換言すれば授業全体の「満足度」を示すものであり、各授業や各種別における代表的な役割を果たすとも見ることができよう。また、裏面にある自由記載形式の質問事項は、「※よりの確な授業改善のため、なるべく具体的に記入してください。」との注意事項の後、「質問1 この授業で良かった点を記入してください。」「質問2 この授業で改善を望む点を記入してください。」「質問3 特に先生に伝えたいことを記入してください。」の3項目が記される。

3. 長岡造形大学の授業評価アンケートにおける数値の特徴

平成18(2006)年度前期分については、授業アンケートの数値が公表されている。同様のものを図2に示したが、ここでは各質問項目の数値について、その特性を私見として少し示しておきたい。

①この授業に関してシラバス(授業科目概要)の表記は適切でしたか。(以下(シラバス)と呼称する。次項以後の括弧内部も同様。)

シラバスは学生が授業を選択する際や、授業予習に際して各回の授業進度を確認するために適切な記述が望まれるものである。その面で、全10種別で評定平均が4.00以上、全体でも4.27と極めて高い値となっており、適切な授業の説明がシラバスを通してなされているものと考えられる。

②授業の進め方は適切でしたか。(進め方)

この項目は全体及び各回の授業進度の適正を聴くものである。環境デザイン学科における演習・実習を除き評定平均は4.00以上、全体でも4.17と比較的高い値となっている。なお、後述するように図2に示した折れ線を見ると、質問②の進め方は、質問⑨の理解度に類似した動きをすることが分る。

③教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。(話し方)

教員の教授法についての基本的な質問である。大規模な教室では拡声器の設備がなされているため、特に中規模以下の教室において適切な授業が行われているのかを示すものである。講義系の授業では10番までの質問に限られるが、その中では4.31と最高点となっており、教授法としては適切なものと考えてよいだろう。

「学生による授業評価」質問用紙・回答用紙

長岡造形大学

このアンケート調査は、皆さんの授業の理解度や興味、関心などを知ることで、授業内容について検討・改善し、よりよい授業を実現するためのものです。アンケートの回答が成績評価に影響を与えることは絶対ありません。皆さんの権利を保護しますので、できる限り正確に回答してください。
次の各項目について、適当と思う内容・評価値(数字)を選び、回答欄に○を記入してください。

* はい [1 2 3 4 5] いいえ の数値は「1: そう思う、2: どちらかといえばそう思う、3: どちらともいえない、4: どちらかといえばそう思わない、5: そう思わない、0: わからない」の意味です。

| 質問 | 回答欄 | | | | | |
|--|-----|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 0 |
| 質問1 この授業に関して、シラバス(授業科目概要)の表記は適切でしたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問2 授業の進め方は適切でしたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問3 教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問4 授業や課題のレベルは自分にとってどの程度でしたか。 合っていた 1 → 合っていないか 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問5 授業の内容をよく理解できましたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問6 宿題や課題の量は適切でしたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問7 本学図書館に、この授業で必要とした図書・資料がありましたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問8 個人に必要な施設の機器備品は十分でしたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問9 授業指導内容の満足度はどの程度でしたか。 満足した 1 → 満足しない 5 わからない 0 | | | | | | |

【演習、実習科目のみに追加の説明】

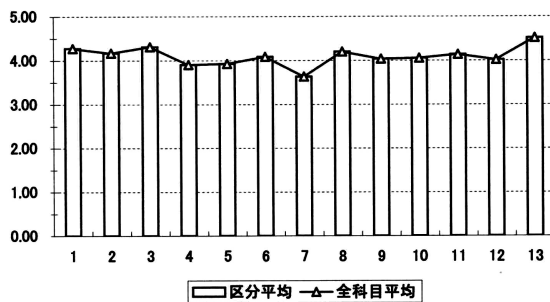
| 質問 | 回答欄 | | | | | |
|--|-----|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 0 |
| 質問10 授業に必要な施設の利用時間は十分でしたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問11 作業手順の指導は適切でしたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問12 個人として必要な用具、材料等は容易に入手できましたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |
| 質問13 安全面について十分な配慮がされていましたか。 はい 1 → いいえ 5 わからない 0 | | | | | | |

(裏面にも記述式があります)
1

図1 「学生による授業評価質問用紙・回答用紙」表面

| 区分名 | A. 全体 | 回答率 (%) | | | | | 無効回答 | 有効回答 | 評定平均 | |
|-----|----------------------------------|------------------|------|------|------|-----|------|------|------|------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | | | |
| 1 | この授業に関して、シラバス(授業科目概要)の表記は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 54.8 | 23.4 | 17.8 | 2.3 | 1.7 | 880 | 4778 | 4.27 |
| 2 | 授業の進め方は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 51.0 | 24.6 | 16.9 | 5.1 | 2.5 | 140 | 5518 | 4.17 |
| 3 | 教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 58.5 | 21.8 | 13.6 | 4.1 | 2.0 | 79 | 5579 | 4.31 |
| 4 | 授業や課題のレベルは自分にとってどの程度でしたか。 | 合っていた[1→5]合っていない | 38.6 | 26.7 | 24.5 | 6.7 | 3.5 | 308 | 5350 | 3.90 |
| 5 | 授業の内容をよく理解できましたか。 | はい[1→5]いいえ | 38.6 | 29.9 | 20.6 | 7.2 | 3.7 | 159 | 5499 | 3.92 |
| 6 | 宿題や課題の量は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 49.4 | 20.9 | 21.5 | 5.3 | 2.9 | 706 | 4952 | 4.09 |
| 7 | 本学図書館に、この授業で必要とした図書・資料はありましたか。 | はい[1→5]いいえ | 39.6 | 18.4 | 22.4 | 5.0 | 14.6 | 2775 | 2883 | 3.63 |
| 8 | 授業に必要な施設の機器備品は十分でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 55.2 | 19.0 | 18.8 | 4.3 | 2.7 | 1519 | 4139 | 4.20 |
| 9 | 授業指導内容の満足度はどの程度でしたか。 | 満足した[1→5]満足しない | 42.5 | 29.5 | 20.0 | 5.0 | 3.1 | 196 | 5462 | 4.03 |
| 10 | 授業に必要な施設の利用時間は十分でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 51.0 | 20.5 | 16.5 | 6.8 | 5.2 | 3675 | 1983 | 4.05 |
| 11 | 作業手順の指導は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 48.9 | 24.9 | 19.1 | 5.0 | 2.1 | 3549 | 2109 | 4.14 |
| 12 | 個人として必要な用具、材料等は容易に入手できましたか。 | はい[1→5]いいえ | 49.4 | 20.6 | 18.2 | 5.7 | 6.1 | 3708 | 1950 | 4.02 |
| 13 | 安全面について十分な配慮がされていましたか。 | はい[1→5]いいえ | 70.3 | 14.8 | 12.2 | 1.7 | 1.1 | 3772 | 1886 | 4.51 |

※「無効回答」とは、無記入、記入ミス、もしくは[0 わからない]を回答したもの。
 ※「評定平均」とは、質問項目毎に「無記入、記入ミス、0回答」を除く有効回答データについて、「1」→5点、「2」→4点、「3」→3点、「4」→2点、「5」→1点として各点を与え、平均を算出したもの。



設問9“満足度”のグラフ(区分別)

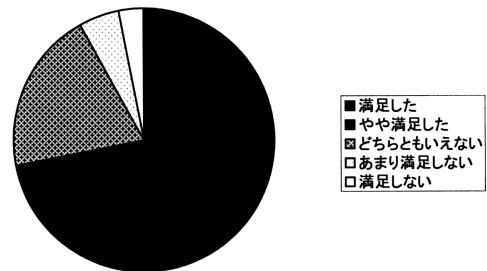


図2 長岡造形大学 平成18(2006)年度前期授業評価アンケート結果

05年度建築構法 05 番号 名前 _____ 051031

1 以下の問いについて簡単に述べて下さい

①「広小舞」のよみと説明
 (よみ: _____)
 説明: _____

③「扇垂木」のよみと説明
 (よみ: _____)
 説明: _____

2 今日の授業で 分からなかったところ 分かりづかったところ があったら書いて下さい

3 その他 先生に 伝えたいことがあったら 書いて下さい

図3 建築構法の副教材

- ④授業や課題のレベルは自分にとってどの程度でしたか。(レベル)
- ⑤授業の内容をよく理解できましたか。(理解)

この2つの質問は数値が近く、いずれも3点台と低い値である。①～③までの質問と対比すると、①において授業で行われる内容はシラバスで認知され、②進め方、③話し方はまずまずであっても、学生自身にとって④授業のレベルは高く、⑤内容はいま一つ理解ができなかった、と考えることもできよう。また、特に環境デザイン学科における講義系種別が低い値となっている点、今後の検討が必要であろう。但し、この授業アンケートの多くが最終授業、即ち最終テストと同日に行われることも、このような傾向を生む要因の1つであるのかもしれない。

⑥宿題や課題の量は適切でしたか。(宿題)

この質問についても数値がやや低い。一科目については問題が少ないかもしれないが、特に学期末になると授業間における課題が重なることは前々から問題とはなっている。種別における数字を見ると、視覚と環境デザイン学科の講義・演習系において低い数字となっている。抜本的な対応は難しいが、各教員間における密な連絡は必要であろう。

⑦本学図書館に、この授業で必要とした図書・資料はありましたか。(図書館)

この設問に対する評点平均値が最も低く、図書館でも長期にわたりこの問題について対応をしている。ところで一連の数値を通覧すると、教養における数字が3.14と一段と低いことが分かる。デザインの単科大学において、図書館が専門書を中心に収集せざるを得ない影響であろうか。

⑧授業に必要な施設の機器備品は十分でしたか。(施設)

いずれの種別においても4.00点以上の評定平均値となっており、特段の問題はないと言えよう。特に各学科における演習・実技系における評定平均値が4.00以上の値を示している点は、実技系を重視する造形系の大学としては及第と言ってよいだろう。

⑨授業指導内容の満足度はどの程度でしたか。(満足度)

満足度は、本調査においても注目される項目で、調査を代表する数値とも言えよう。その面で全体の評定平均値が4.00点を超え、4.03点と前回をかなり上回ったことは、各授業及びカリキュラム改善の成果と考えられよう。種別で見ると環境デザイン学科の講義における数字がやや低い。また、折れ線グラフで見ると⑨満足度は⑤理解の評定平均の変化に最も近く、次いで②進め方に近い値をとることが理解できる。即ち、進度が的確で分かりやすい授業が満足度も高いと言い換えることができよう。

⑩授業に必要な施設の利用時間は十分でしたか。(利用時間)

⑪作業手順の指導は適切でしたか。(手順)

⑫個人として必要な用具、材料等は容易に入手できあましたか。(用具の入手)

⑬安全面について十分な配慮がされてきましたか。(安全面)

以上の4項目はいずれも実習・演習系の授業についてのみの設問である。⑬安全面については全項目中で最も高い値となっていることは極めて好ましい傾向と言えよう。但し、⑩利用時間、⑫用具の入手における評定平均値がやや低い点は今後の検討課題と言えよう。

4. 満足度の充に関する試みとその成果

さて、以下では筆者が実際に⑨満足度の値を上げるに至った背景と、その考えを述べ、成果を示したい。

4-1 満足度の充足に至った背景

筆者が担当する講義及び実習系科目は、学年前期では建築史Ⅰ、後期が建築構法、測量学・実習Ⅱである。平成17(2005)年度後期の授業に臨むに当たり、これらの授業における授業アンケートの結果を少なくとも受講者には公表したいと考えていた。一方、これまで実施してきた授業の進め方で、担当科目における学生の満足度は、およそ4.0点を記録していたが、授業全体の満足度が年々漸増してその差は小さくなっていった。そこで、満足度を高めるための試みを模索していた。

ところで平成16(2004)年10月23日、当該地域を中越大地震が襲った。本学校舎への被害は最低限のものであったが、学生、地域における被災は甚大であった。特に交通機関の不通は授業運営に大きな障害となった。新幹線は越後湯沢―新潟間が不通となったが、10月31日からは不通区間のバス代行が実施され、12月28日からは運転が再開された。しかし、上越線、信越本線などの在来線は更に長期にわたる不通でバス代行が続いた。震災後、大学では1週間休校の処置をとって授業は再開したものの、バス代行による通学者は恒常的な遅刻を余儀なくされた。この

間、筆者の担当する授業で特に問題になったのは、朝の1、2限に実施していた測量学・実習Ⅱであった。1限は9時からの始業、2限終了は12時10分であったが、代行バスによる通学者の中で、朝1番のバスに乗りしてもどうしても11時45分にしか到着できない学生がいた。即ち学生が到着するのは授業終了間際であった。測量学・実習Ⅱの授業ではこの時期、実習の説明後、一連の計算実習を行っていた。この学生にどう対応すべきか、対応が迫られた。

一方、40人程度の学生に計算問題の実習を行わせると、どうしても学力の差異による時間差が出てしまう。特に問題を説明して同じ時間内で実習をさせると、早く回答を出した学生は遅い学生が終わるまで待っていなければならない。特にこの測量学・実習Ⅱの場合は、測角器(トランシット)で求めた測角値を

測角値→誤差の配分→調整測角値→方位角→方位→緯距・経距→調整緯距・調整経距→合緯距・合経距→面積

という段階を踏み、最終的に面積を求めるという授業の流れを持っていた。これは各段階が積み上げ式になっており、ある段階で値が求められないと次の段階には進むことはできないこととなる。即ち、計算実習で手こずった者、更には遅刻者、欠席者は以後の段階における計算に進めないことになる。

遅刻者と学力差に対して検討すべき課題はある面で共通したものであった。

4-2 満足度の充足のために行ったこと

そこで考えたのは、課題を徹底的に副教材として印刷・配布することであった。即ち、授業で課題とする問題を全て作表して印刷物とし、授業のはじめもしくは2回程度に区切って説明を行った後、これを複数枚、毎回授業で回答し提出する形式とした。また、授業説明後は極力各学生の計算を見て回り、全ての質問に答える授業運営を行うこととした。

このようにすると、前回授業の欠席及び当該授業の遅刻学生などに対し、副教材印刷物の問題回答についての説明時間も十分に取ることができた。また、当該授業における課題及び到達目標も明らかとなり、授業に対する進捗の遅れも最低限に抑えることが可能で、1人1人の学生の進捗も明確に把握することが可能となった。

このような形式で、授業では毎回の副教材提出を学生に義務付け、これへの捺印により提出を確認し、出席としていた。ところがある日、副教材を返した学生から「先生、プリントの内容を見てくれますか?」と尋ねられた。裏返せば、学生は副教材の1枚1枚を見てほしいと言っていることを感じた。

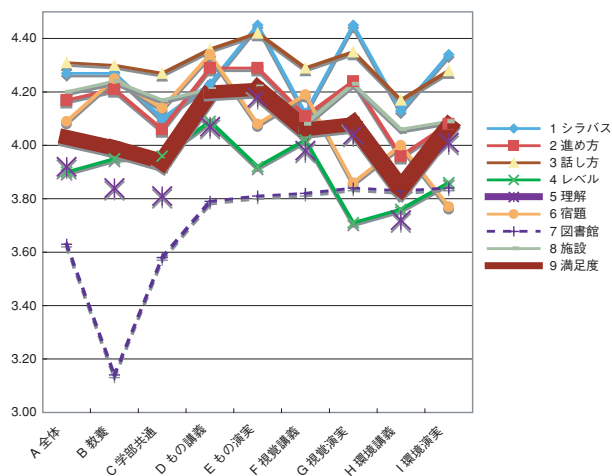


図4 平成18(2006)年度前期授業評価アンケート結果

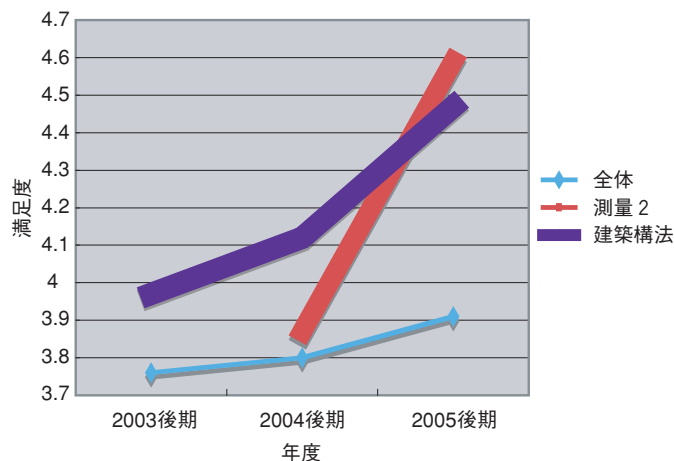


図5 建築構法、測量学実習Ⅱにおける満足度の年度別変遷

2005年度

科目別集計結果表 (グラフ付き)

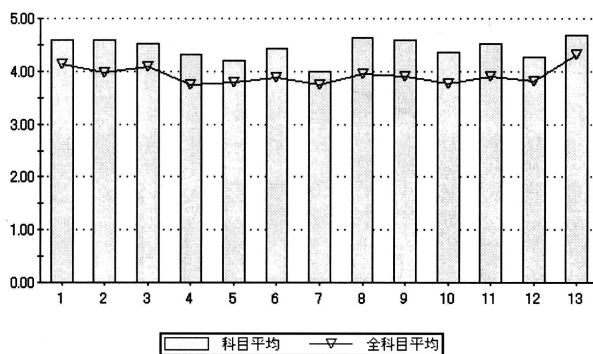
2006.02.16

対象者数: 27名

| | |
|-----|----------------|
| 科目名 | 408 測量学・実習Ⅱ |
| 教員名 | 平山 |

| | | 回答率 (%) | | | | | 無効回答 | 有効回答 | 評定平均 | |
|----|----------------------------------|---------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | | | |
| 1 | この授業に関して、シラバス(授業科目概要)の表記は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 74.1 | 14.8 | 7.4 | 3.7 | 0.0 | 0 | 27 | 4.59 |
| 2 | 授業の進め方は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 70.4 | 25.9 | 0.0 | 0.0 | 3.7 | 0 | 27 | 4.59 |
| 3 | 教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 66.7 | 22.2 | 7.4 | 3.7 | 0.0 | 0 | 27 | 4.52 |
| 4 | 授業や課題のレベルは自分にとってどの程度でしたか。 | 合っていた[1→5]合っていないかった | 53.8 | 26.9 | 15.4 | 3.8 | 0.0 | 1 | 26 | 4.31 |
| 5 | 授業の内容をよく理解できましたか。 | はい[1→5]いいえ | 59.3 | 11.1 | 18.5 | 11.1 | 0.0 | 0 | 27 | 4.19 |
| 6 | 宿題や課題の量は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 69.2 | 11.5 | 11.5 | 7.7 | 0.0 | 1 | 26 | 4.42 |
| 7 | 本学図書館に、この授業で必要とした図書・資料はありましたか。 | はい[1→5]いいえ | 47.1 | 23.5 | 17.6 | 5.9 | 5.9 | 10 | 17 | 4.00 |
| 8 | 授業に必要な施設の機器備品は十分でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 72.0 | 24.0 | 0.0 | 4.0 | 0.0 | 2 | 25 | 4.64 |
| 9 | 授業指導内容の満足度はどの程度でしたか。 | 満足した[1→5]満足しない | 70.4 | 18.5 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 0 | 27 | 4.59 |
| 10 | 授業に必要な施設の利用時間は十分でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 56.5 | 26.1 | 13.0 | 4.3 | 0.0 | 4 | 23 | 4.35 |
| 11 | 作業手順の指導は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 60.9 | 30.4 | 8.7 | 0.0 | 0.0 | 4 | 23 | 4.52 |
| 12 | 個人として必要な用具、材料等は容易に入手できましたか。 | はい[1→5]いいえ | 52.6 | 26.3 | 15.8 | 5.3 | 0.0 | 8 | 19 | 4.26 |
| 13 | 安全面について十分な配慮がされていたか。 | はい[1→5]いいえ | 76.2 | 14.3 | 9.5 | 0.0 | 0.0 | 6 | 21 | 4.67 |

※「無効回答」とは、無記入、記入ミス、もしくは[0 わからない]を回答したものを。
 ※「評定平均」とは、質問項目毎に「無記入、記入ミス、0回答」を除く有効回答データについて、「1」→5点、「2」→4点、「3」→3点、「4」→2点、「5」→1点として各点を与え、平均を算出したもの。



設問9「満足度」のグラフ(科目別)

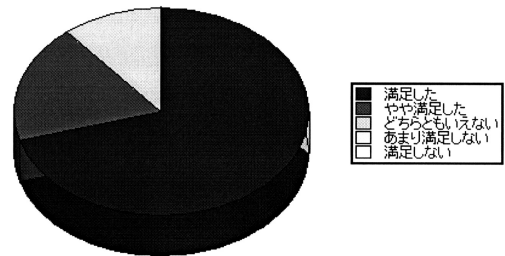


図6 2005年度「測量学・実習Ⅱ」授業アンケート結果

2006年度 前期

長岡造形大学 科目別集計結果表

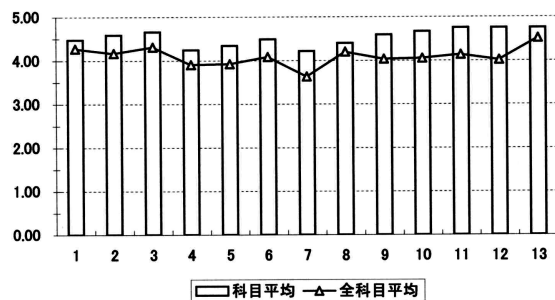
2006.09.13

対象者数: 41名

| | |
|-----|-------------|
| 科目名 | 051 建築史Ⅰ |
| 教員名 | 平山 育男 |

| | | 回答率 (%) | | | | | 無効回答 | 有効回答 | 評定平均 | |
|----|----------------------------------|---------------------|------|------|------|-----|------|------|------|------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | | | |
| 1 | この授業に関して、シラバス(授業科目概要)の表記は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 65.0 | 22.5 | 10.0 | 0.0 | 2.5 | 1 | 40 | 4.48 |
| 2 | 授業の進め方は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 75.6 | 14.6 | 4.9 | 2.4 | 2.4 | 0 | 41 | 4.59 |
| 3 | 教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 80.5 | 12.2 | 2.4 | 2.4 | 2.4 | 0 | 41 | 4.66 |
| 4 | 授業や課題のレベルは自分にとってどの程度でしたか。 | 合っていた[1→5]合っていないかった | 46.3 | 34.1 | 17.1 | 2.4 | 0.0 | 0 | 41 | 4.24 |
| 5 | 授業の内容をよく理解できましたか。 | はい[1→5]いいえ | 53.7 | 29.3 | 14.6 | 2.4 | 0.0 | 0 | 41 | 4.34 |
| 6 | 宿題や課題の量は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 65.9 | 22.0 | 9.8 | 0.0 | 2.4 | 0 | 41 | 4.49 |
| 7 | 本学図書館に、この授業で必要とした図書・資料はありましたか。 | はい[1→5]いいえ | 57.1 | 21.4 | 10.7 | 7.1 | 3.6 | 13 | 28 | 4.21 |
| 8 | 授業に必要な施設の機器備品は十分でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 60.0 | 20.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 6 | 35 | 4.40 |
| 9 | 授業指導内容の満足度はどの程度でしたか。 | 満足した[1→5]満足しない | 71.8 | 17.9 | 7.7 | 2.6 | 0.0 | 2 | 39 | 4.59 |
| 10 | 授業に必要な施設の利用時間は十分でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 66.7 | 33.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 38 | 3 | 4.67 |
| 11 | 作業手順の指導は適切でしたか。 | はい[1→5]いいえ | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 37 | 4 | 4.75 |
| 12 | 個人として必要な用具、材料等は容易に入手できましたか。 | はい[1→5]いいえ | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 37 | 4 | 4.75 |
| 13 | 安全面について十分な配慮がされていたか。 | はい[1→5]いいえ | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 37 | 4 | 4.75 |

※「無効回答」とは、無記入、記入ミス、もしくは[0 わからない]を回答したものを。
 ※「評定平均」とは、質問項目毎に「無記入、記入ミス、0回答」を除く有効回答データについて、「1」→5点、「2」→4点、「3」→3点、「4」→2点、「5」→1点として各点を与え、平均を算出したもの。



設問9「満足度」のグラフ(科目別)

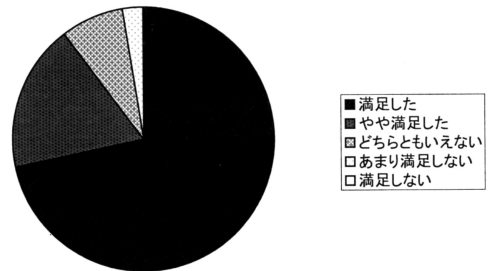


図7 2006年度「建築史Ⅰ」授業アンケート結果

このような状況を踏まえて、臨んだのが平成17(2005)年度後期の授業であった。測量学実習では特に毎回の積み上げた成果により授業を進めた。そのため、1度授業の進捗に遅れて脱落すると、次の授業に参加しづらくなる傾向があった。脱落は学生の遅刻などによる場合もあったが、授業を担当する筆者の力量不足や、板書、説明の不備による学生の不理解の可能性も否定はできないであろう。それを防ぐため、授業アンケートでは「教員の声の大きさや話し方は適切でしたか」や「授業の内容をよく理解できましたか」などの質問事項も設けられてはいた。しかし、全授業が終了した後で、授業アンケートにより板書や説明の不備、授業内容の不理解を指摘されても、それは当該学年の学生に対しては補足して説明、解説を行うことは不可能であった。

そこで考えたのが毎回の副教材提出と学生からの意見聞取の合体であった。つまり毎回の副教材余白もしくは裏面に、

- 1 今日の授業で **分からなかったところ 分かりづらかったところ**があったら書いてください
- 2 その他 先生に 伝いたいことがあったら 書いてください

の2項目を書き加え、積極的に学生の意見を集めると同時に、次の授業において副教材類を返却するに際して、どんな質問、要望などにも答えると同時に、板書や説明における誤字、解説の不備は補足して全員に説明することとした。ちなみに、2番目の質問項目は授業アンケートの自由記載項目の1つである。

これは見方を変えれば、毎回の授業において、質問項目を最低限とした授業アンケートを実施し、これを次の授業において反映させたこととなる。

一方、建築構法の授業は講義科目であるため測量学・実習Ⅱとは別の対応が迫られた。そこでこの授業では、毎回の授業の最後10分間において、当該授業で重要と思われる点を問題として記述式の副教材を作成し、その末尾もしくは裏面に測量学・実習Ⅱと同様の質問項目2つを設け、意見の聞取に努めた(図3)。同時にこの授業においても、測量学・実習Ⅱの授業同様、全ての質問、疑問、意見などを次の授業において答えることとした。

基本的にこの形式を測量学・実習Ⅱ及び建築構法の授業で毎回実施した。学生からは様々な質問、意見、相談が寄せられた。特に複数回の授業でこの副教材の利用を続け、学生もこの形式に慣れた頃から、敢えて質問に来ることがはばかれるような些細な質問や意見が増えたように思う。教材の作成、意見への回答など、授業の準備に対してはこれまで以上の時間が必要とはなった。しかし、

わからない所をわかるまでつきあって下さってありがとうございます。僕は計算が遅くて残ってましたが、先生も残って下さって嬉しかったです。

などの意見を見ると、授業準備の励みとなった。

4-3 満足度の充足とその発表

さて、各授業における満足度の年度別変遷を表1に示した²⁾。これを見ると、建築構法では試みを始めた平成17(2005)年度で数値が上昇した。また、測量学・実習Ⅱでは値が一気に上がった。両授業では板書の整理、学生に対して徹底した理解などにも努めたが、成果の多くは上述した副教材の充実によるものと考えられる。

また、学内情報ネットワークの「パレット」を用いて授業アンケートの結果は原紙の複写を受講者全員に対して公表し、自由記載欄についても同様に、寄せられた意見の全てを公表し、それに対しての回答を実施した。

5. おわりに

以上、本学における授業アンケートの傾向を述べるとともに、満足度の充足に向けての試みの事例をまとめた。改めてご意見を頂ければ幸いです。

なお、意見聴取に基づく過度な授業運営の変更は学生への迎合となるであろう。その点における注意は必要であるが、学生の授業理解への努力は惜しみなくすべきと考える。

附 論

平成18(2006)年度前期における建築史Ⅰの授業においても同様の副教材を作成し、毎回の授業において学生から意見の聴取を実施した。併せて授業の説明においては毎回パワーポイントの作成を行い授業理解の助けとした。

なお、3回目の授業では使っていた教室が板書を取るに当たっては不都合である旨の指摘があり、翌週から教室の交換を行った。この点など授業アンケートのみの実施で、全授業終了後に同意見をもらっても年度内の改善は望めなかったであろう。また、現在使う液晶プロジェクターは始動に30秒程かかり、何も映さない画面提示しても青白い光が板書を行う黒板に投影されてしてしまう。この点も学生から、黒色の画面を作成して投影していればよいのではないか、との指摘があった。これを実施すると実際画面には光が投影されず、黒板が見やすくなった。これも指摘を受けた次回授業から早速実施し、円滑な授業運営が可能となった。

建築史Ⅰの授業アンケートの結果は表2に示した通りで、満足度は4.59の値であった。なお、平成17(2005)年度後期は受講者のみであった授業アンケート結果の公表は、来年度以後の受講も考慮して全学学生に対して行い、自由記載欄についても平成17(2005)年度後期と同様、寄せられた意見の全てに対して回答を実施した。

注

¹⁾ 学部共通が1種類、3学科において共通の講義及び演習・実習の2種類があるため都合6種類、合計7種類となる。

²⁾ 建築構法については筆者1人での授業のため、平成15(2003)年度以来のも、測量学・実習Ⅱは筆者の他に2人の非常勤教員と授業運営を行っており、了解を得た平成17(2005)年度のものみ具体的な数値を掲載した。